部会案内

1. オープンCOBOLソリューション部会
2. 教育ICT部会
3. クラウド部会
4. Cyber Physical embedded部会
5. データベース部会
6. 東海支部
7. .NET開発基盤部会
8. ビジネスアプリケーション部会
9. 分散コンピューティング部会

「オープンCOBOLソリューション部会」のご紹介

2017年7月10日

OSSコンソーシアム
オープンCOBOLソリューション部会

OSS Consortium オープン COBOL ソリューション 部会

Agenda

- オープンCOBOLソリューション部会の紹介
  - 概要
  - opensource COBOLについて
  - 活動状況
  - 今年度の活動計画

- リーダ、参加メンバー企業紹介

目的

- 基幹システムでのOSS普及を背景として、プロプライエタリな環境が一般的なCOBOLの開発においてもオープンソースのメリットを活かすため、**OSS COBOLを技術・ビジネスの両面からサポートできるように整備**していき、基幹システムにおけるOSS化の**普及・促進に貢献**する。

対象

- OSS COBOLをはじめとするOSSの基幹システムを提供している企業、技術者
- OSS COBOLをはじめとするOSSの基幹システムを利用しているユーザ
- OSS COBOLをはじめとするOSSの基幹システム採用に興味のある企業、技術者、ユーザ

活動内容

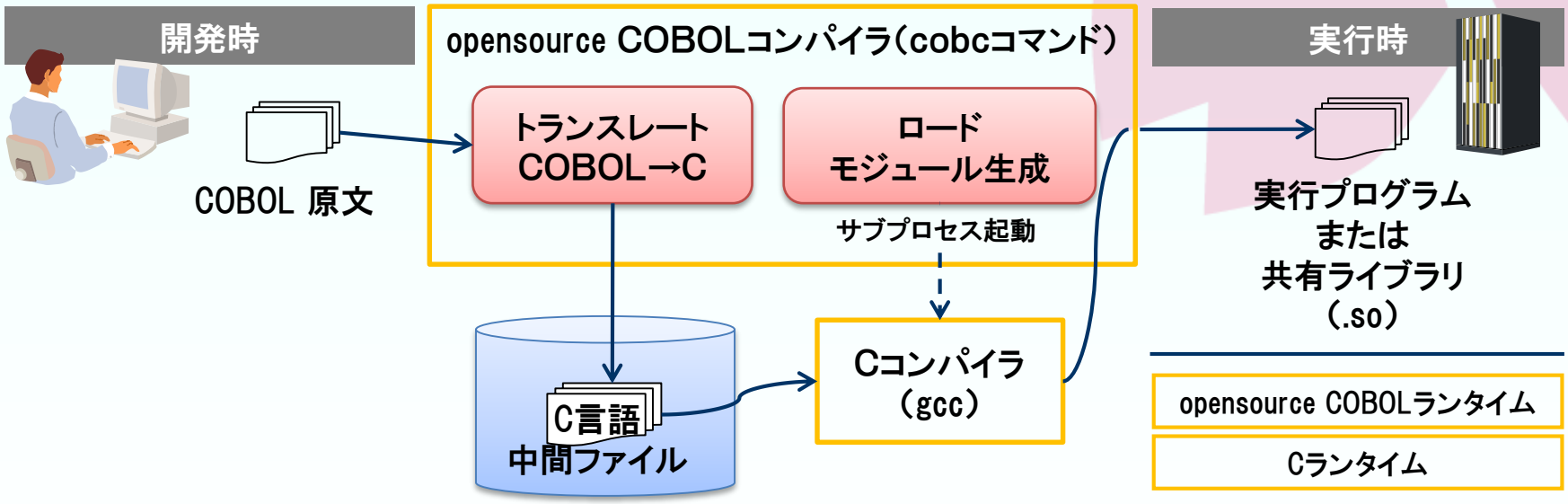
- 国内でも実績のあるOSS COBOLのOpenCOBOL 1.1 pre-releaseをベースに、処理系自身の既知のバグや未実装機能および有用と思われる拡張機能などの情報を共有する。そのうえで、実システムへの適用を促進するため、opensource COBOLの修正・拡張をリリースする
- OSS COBOLの認知度向上と、ビジネス適用のために必要なドキュメント等を整備する
- オンライン・Face-to-Faceミーティングを通して、参加企業間でのOSS COBOLを中心としたソリューションビジネスの検討、又協業を検討する
- 部会内ミーティングの開催(隔月)
- セミナーの開催

opensource COBOLのご紹介

言語仕様 基本的にCOBOL85準拠

構成 コンパイラ＋ランタイム

Cトランスレータ方式のため、前提製品としてCコンパイラを必要とします
（Linuxの場合はgcc、Windowsの場合はcl.exe。）



メリット＆成果物

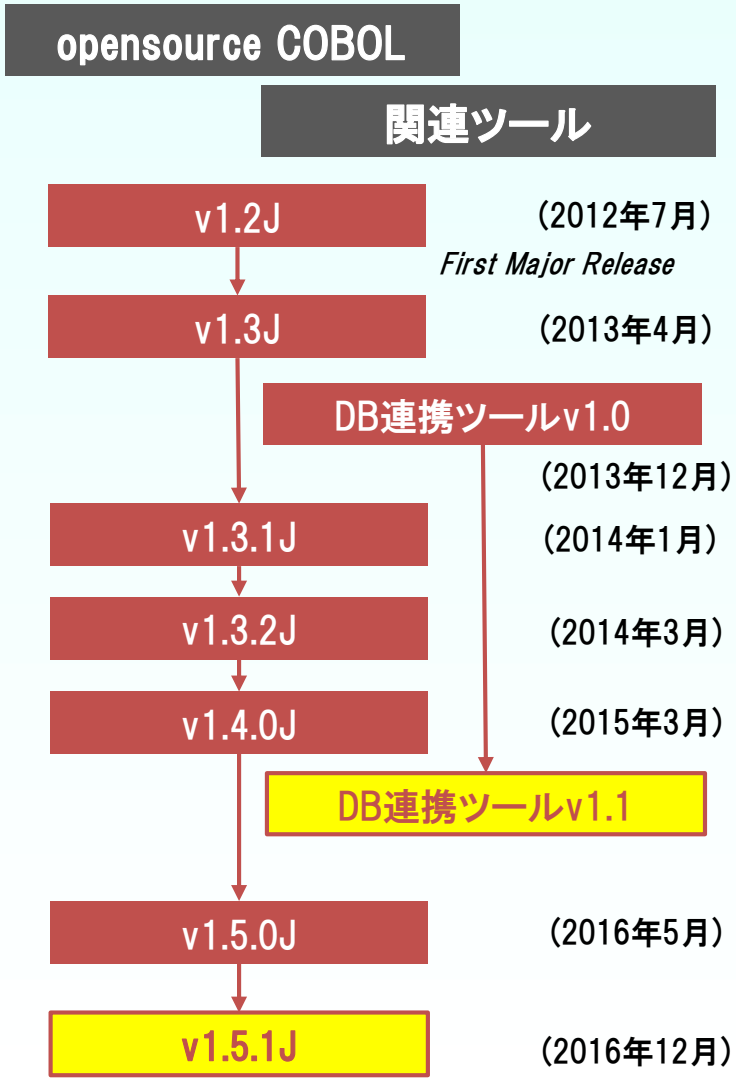
- opensource COBOLの開発コミッタになれる！
- 基幹システムへのOSS適用についての情報の入手
- 基幹システムへのOSS適用についての協業の検討
- セミナー実施、報告

詳細は http://www.osscons.jp/osscobol/ にて

活動報告

日付	内容
2016/09/01	OSC .enterpriseセミナー講演とブース出展
2016/12/09	opensource COBOL v1.5.1J リリース
2017/01/27-28	OSC .enterprise@OSAKAブース出展
2017/04/20	ITモダナイゼーションSummit2017（日経BP）ブース出展
2017/06/09	第8回オープンCOBOLソリューション部会セミナー開催

活動報告



opensource COBOL主な拡張

- 日本語(SJIS、UTF-8対応)機能のサポート
- ユーザファイルハンドラのサポート
- **Windowsネイティブのサポート**
- **CUIを拡張**
- 比較処理等、処理系をCOBOL仕様と同じに変更
- 既存COBOLソースに使われている文、関数をサポート
- 既存COBOLソースでの緩い仕様をサポート
- バグフィックス

…etc.

日本のビジネス適用に必要な機能を拡張

導入実績（部会内）

自治体向け
職員総合・財務会計・予算編成システム

卸売業向け
紙卸商システム フルオープンソース化

卸売業向け
青果卸売システム　OSSと商用製品のハイブリッド

2017年度活動計画

- 技術、ビジネスなどテーマ毎の展開
  - 技術テーマWG
    - opensource COBOLの拡張とバグフィックス
    - 上記以外の周辺ツール(埋め込みSQLライブラリ等)の開発
  - ビジネステーマWG
    - セミナー 1回(東京)
    - OSC出展

- 隔月ベースで部会開催
  - ✓ 次回部会開催
    2017年7月26日　16時30分～@CIJ

リーダ

有限会社ランカードコム 代表取締役　峰松 浩樹

東京システムハウス株式会社

　マイグレーションソリューション部 スペシャリスト　井坂 徳恭

参加企業

- 株式会社アックス
- 株式会社エネルギア・コミュニケーションズ
- 株式会社CIJ
- サン情報サービス株式会社
- 株式会社JP情報センター
- 東京システムハウス株式会社
- 株式会社ビイガコーポレーション
- 株式会社日立ソリューションズ
- 有限会社ランカードコム

（五十音順）

部会案内

1. オープンCOBOLソリューション部会
2. 教育ICT部会
3. クラウド部会
4. Cyber Physical embedded部会
5. データベース部会
6. 東海支部
7. .NET開発基盤部会
8. ビジネスアプリケーション部会
9. 分散コンピューティング部会

教育ICT部会の紹介

株式会社オープンソース・ワークショップ
永原　篤

https://www.facebook.com/GakkoICT/

教育ICTって？

教育界でのICT

なんか、いろいろ思い浮かびますよね。

- 学校紹介のホームページ？
- e-Learning？
- 学籍・成績管理？
- タブレット授業？
- プログラミング授業？

などなど、教育業界のICT活用範囲は多岐にわたっております。

ある大学の授業でのアンケート結果

回答者数　73人

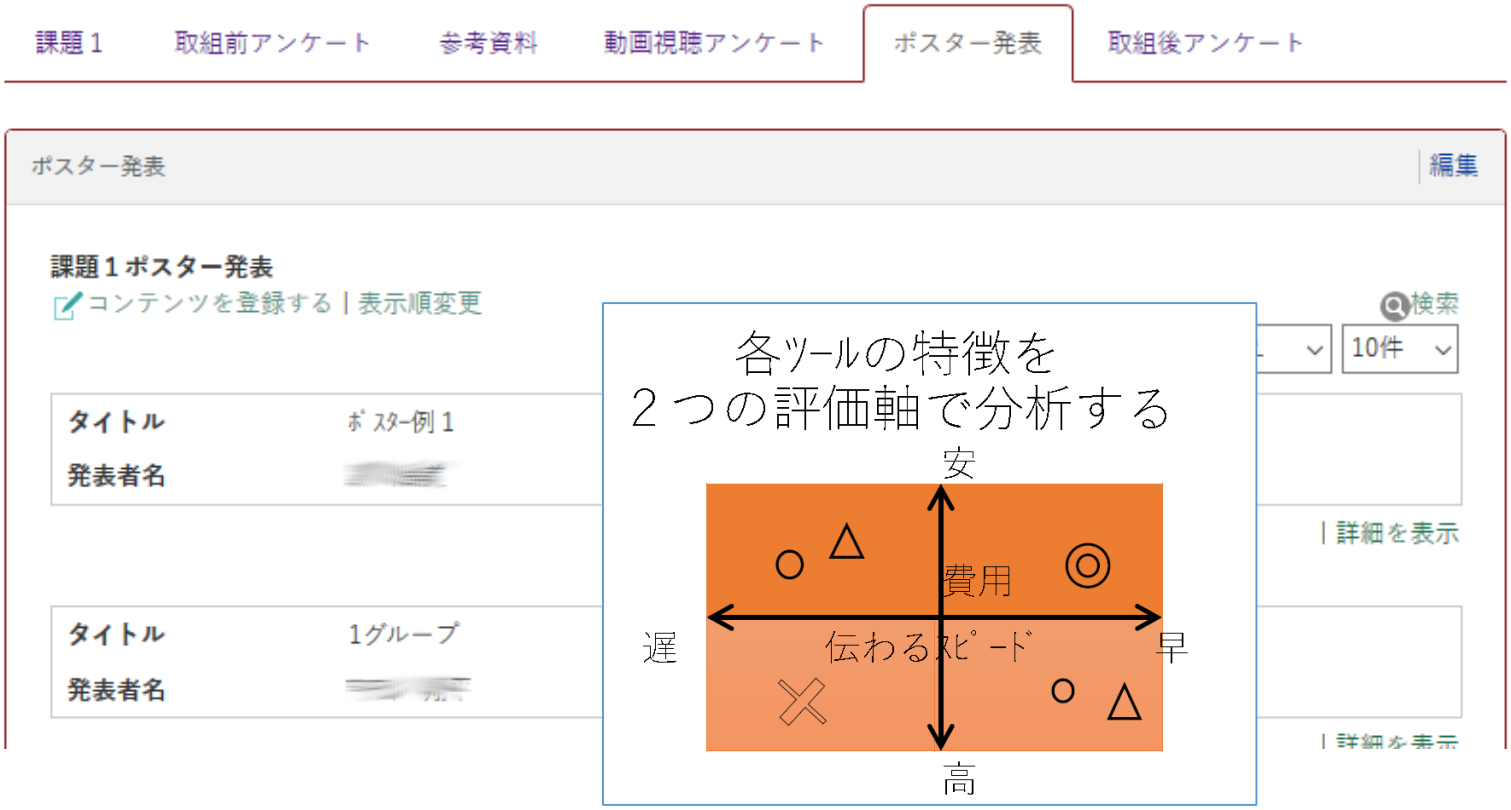
日頃、最も利用している「連絡をとりあう（情報共有）ツール」はどれですか（複数回答可）

A. メール	A=10件	13.7%
B. LINE	B=70件	95.9%
C. 手紙	C=1件	1.4%
D. 電話	D=15件	20.5%
E. Skype	E=1件	1.4%
F. 上記を使えるが利用していない	F=2件	2.7%
G. 上記を使えない	G=0件	0.0%

在学中の情報共有、プログラミング、卒業後の情報共有や情報発信
住居・インテリア学科。情報処理入門：基礎科目の必修

https://www.facebook.com/GakkoICT/

授業でのICTの活用例



授業におけるICTの活用、ICTを使った情報の整理の仕方についての学び

https://www.facebook.com/GakkoICT/

教育ICT部会の目的

- 教育界でのスムーズなICT導入を補助するため、オープンソースの利活用を考え、ワークショップなどで周知する。
- 学校ICTワークショップというイベントで地方セミナーを企画・実施する。

活動予定内容

- オープンソースを使用したプログラミング教育への提案
- Eラーニングソフトの機能検証と利用方法の習得
- 技術的なディスカッションおよびセミナーの開催
- ユーザ間、ベンダ間の情報交換
- 各OSSコミュニティとの連携と相互協力

報告事項

- 教育ICT部会として、2015年度より活動させていただき、管理職を含めた学校教員やIT事業者などに参加していただき、教育ICTについての情報交換会を複数回にわたって開催させていただきました。
- その結果、教育ICTとして求められていることが非常に多岐にわたることがわかりました。
- 現在、教育に寄与できるオープンソースという観点で、再度、活動内容を見直しております。
- そのため、2017年度は休部させていただき、活動内容が確定してきた段階で、再開させていただきます。期待していただいている皆様には申し訳ございませんが、いましばらく、お待ちいただけますようお願いいたします。
- 休部中も、活動内容の検討は続けておりますので、案を持ち寄っていただくことは、とても有難く、お聞きします。その際は部会リーダーまで、ご連絡いただければ幸いです。

部会案内

1. オープンCOBOLソリューション部会
2. 教育ICT部会
3. クラウド部会
4. Cyber Physical embedded部会
5. データベース部会
6. 東海支部
7. .NET開発基盤部会
8. ビジネスアプリケーション部会
9. 分散コンピューティング部会

2017年度クラウド部会 活動計画

株式会社日立ソリューションズ
吉田行男

◆国内オープンソースソフトウェア利用実態

OSS Consortium

■ 国内オープンソースソフトウェア利用実態

- 企業におけるOSSの導入率は31.3%、前年(31.5%)および一昨年(32.0%)の調査からの大きな変化なし。
  - ✓ 産業分野別：通信/情報(39.2%)>公共／公益(37.6%)＞金融(35.4%)の順。
  - ✓ 従業員規模別では、1,000人以上で導入が活発。100人～499人が最も低調。
  - ✓ 中小企業ではOSSを導入して管理する人材が乏しいのが原因？
- IaaS利用企業の42.5%及びPaaS利用企業の53.1%がOSSを積極的に使用していくという方針。

出典：IDC「国内オープンソースソフトウェア利用実態調査結果」

分野	OSS	使用率
OS	Linux 系	67.3%
	BSD 系	12.9%
RDBMS	MySQL	53.1%
	PostgreSQL	35.0%
アプリケーションサーバー	Tomcat	35.6%
	JBoss	12.0%
	Zabbix	16.2%
システム運用管理	Nagios	7.1%
	Chef	3.9%
	Hinemos	1.9%
システムソフトウェア	Samba	21.4%
	BIND	13.6%
ハイパーバイザー	Xen	16.2%
	KVM	10.7%
クラウド基盤	OpenStack	6.1%
	Docker	4.5%
	CloudStack	3.6%
	Cloud Foundry	2.9%
データ分散処理	Hadoop	6.8%
	Spark	1.3%
	MongoDB	4.5%
NoSQL	Scalaris	4.2%
	Cassandra	2.6%
	Hypertable	2.6%

クラウドサービスの普及がOSS利用拡大のドライバーに！

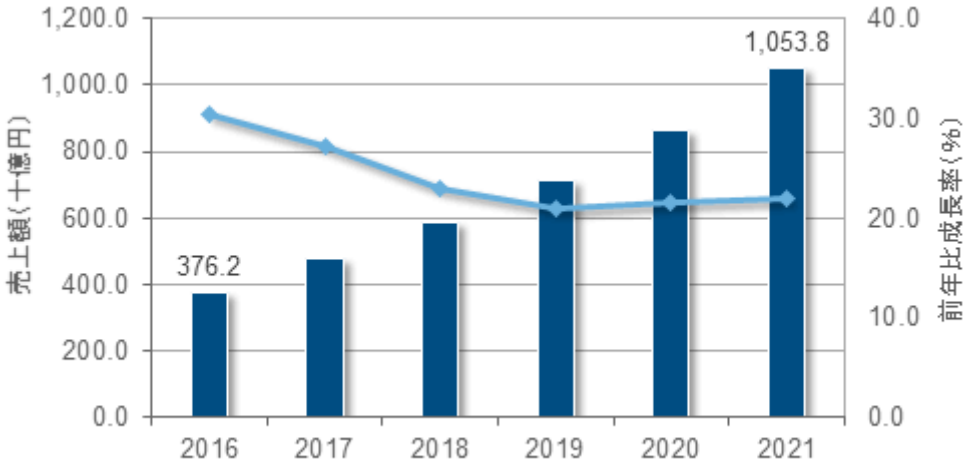
◆ クラウド関連市場動向(①)

OSS Consortium

■ 国内パブリッククラウドサービス市場予測

- 2016年の国内パブリッククラウドサービス市場は、前年比30.5%増の3,762億円
- 2021年の市場規模は、1兆円を超えると予測
- 国内パブリッククラウドサービス市場は「新たな成長期」の到来が鮮明となる

国内パブリッククラウドサービス市場 売上額予測、2016年～2021年



Note: 2016年は実績推定値、2017年～2021年は予測値
Source: IDC Japan, 3/2017

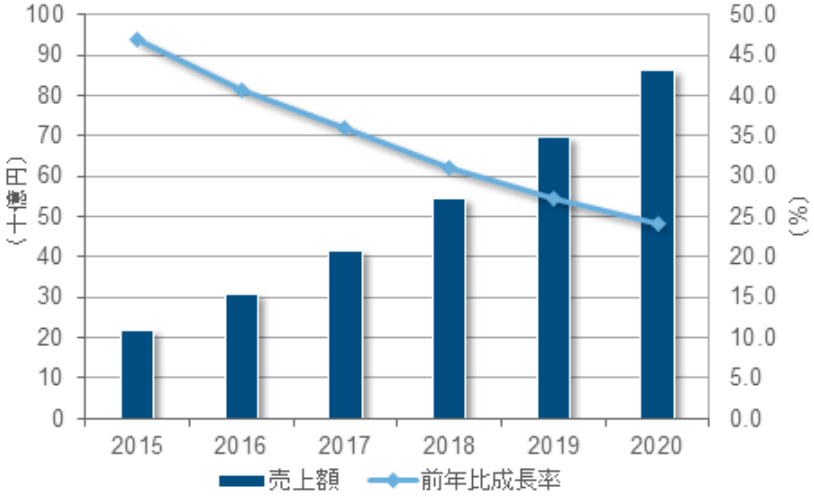
◆ クラウド関連市場動向(②)

OSS Consortium

■ 国内インフラストラクチャソフトウェア市場予測

- 2015年の国内クラウドインフラストラクチャソフトウェア市場は前年比成長率47.0%の217億9,600万円。内、プライベートクラウド向け市場は前年の1.5倍に拡大
- 2016年は前年比成長率40.6%で306億円5,400万円になる見込み
- 2015年～2020年の年間平均成長率は31.6%、2020年には2015年の約4倍となる862億円に

国内クラウドインフラストラクチャソフトウェア市場 売上額／前年比成長率予測、2015年～2020年



Source: IDC Japan, 11/2016

◆ 2016年度活動成果

OSS Consortium

◆ 2016年度の成果

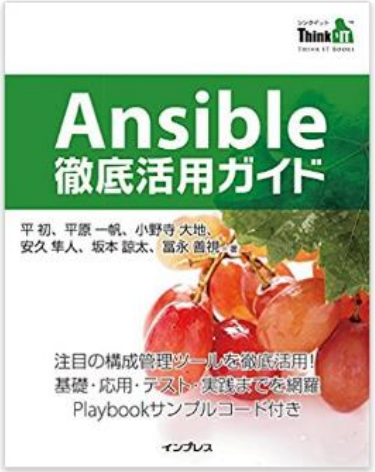
A) Web投稿

① 注目の構成管理ツールAnsibleを徹底活用する第1部(ThinkIT)
全7回(2016/3～2016/8)

② 注目の構成管理ツールAnsibleを徹底活用する第2部(ThinkIT)
全6回(2017/4スタート)

B) 書籍化

A) 上記Web投稿の書籍化(2016/10)



Ansible 徹底活用ガイド (Think IT Books) 単行本（ソフトカバー） – 2016/10/6
平 初 (著), 平原 一帆 (著), 小野寺 大地 (著), 安久 隼人 (著), 坂本 諒太 (著), 冨永 善視 (著)
カスタマーレビューを書きませんか？

その他（2）の形式およびエディションを表示する

Kindle版	単行本（ソフトカバー）
￥ 1,800	￥ 1,944
今すぐお読みいただけます: 無料アプリ	￥ 1,291 より 7 中古品の出品 ￥ 1,944 より 3 新品

◆ 2017年度活動計画（①）

OSS Consortium

(1) 目的

A) クラウド環境構築のために活用するオープンソースやビジネスへの影響についての情報共有

① OpenStack等のクラウド基盤を構築するためのオープンソースだけではなく、運用管理や自動構築向けのオープンソースなどクラウド基盤を運用するためのオープンソースも含めて、どのようなオープンソースがあり、どのように活用できるかについて、部会内で情報共有を図る。

② クラウド上でオープンソースを活用することによるビジネスへの影響についても情報共有を図る。

B) IoTとクラウドとの親和性の実証実験の実施

① IoT化に伴う膨大なデータをクラウド上で扱う上での課題について、実証実験で明らかにする。

◆ 2017年度活動計画（②）

OSS Consortium

(2) 参加対象

A） オープンソースを活用したクラウドソリューションを提供している企業
B） オープンソースを活用したクラウドソリューションを提供している技術者
C） オープンソースを活用したクラウドソリューションを提供しているユーザ

(3) 活動内容

A） ミーティングの実施(隔月1回実施)
　① オープンソースを活用したクラウドソリューション及びクラウドビジネスの紹介
　② 新技術の調査(ex.API管理　等)
B） 実証実験の実施
　① Raspberry Pi等のデバイスを活用し、クラウド(Microsoft Azure)と連携し、AP開発等による実証実験を行う。
C） 自動化ツールAnsible　WGの開催
　①Ansibleに対する理解
　②Playbookの作成及びメンテナンス
D） セミナーの開催
　① 部会主催セミナーの実施(年1回)

◆ 2017年度活動計画（③）

OSS Consortium

(4) 活動周期

隔月1回のミーティング及びメーリングリストにより活動を実施

(5) メリット＆成果物

A） メリット

① クラウドソリューション提供企業の生の情報の入手

② クラウドソリューション提供企業との協業の検討

B） 成果物

① クラウドを構成するOSSに関する情報

② 実証実験の結果による、知見。

(6) リーダー名

ユニアデックス株式会社　クラウドITOサービス事業本部　本部長補佐　田淵　秀

株式会社日立ソリューションズ 技術革新本部 研究開発部　主管技師　吉田　行男

お気軽に
ご参加下さい。

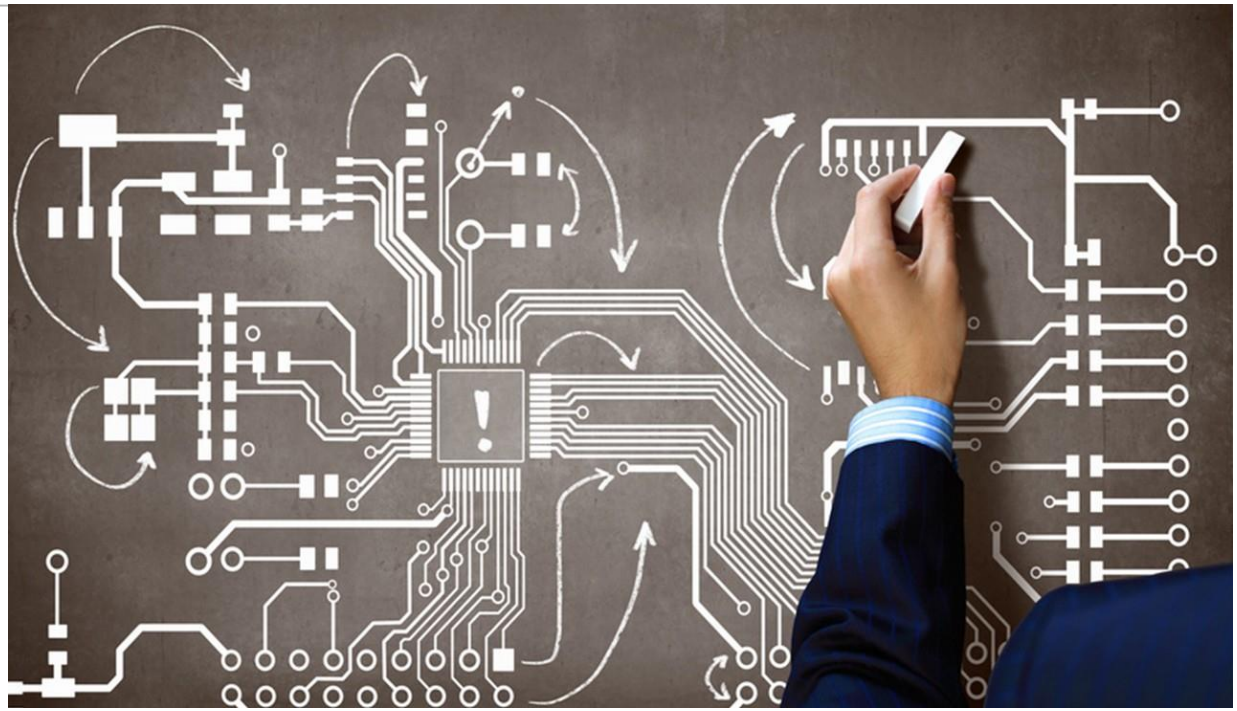
クラウド部会 - OSSコンソーシアム

部会案内

1. オープンCOBOLソリューション部会
2. 教育ICT部会
3. クラウド部会
4. Cyber Physical embedded部会
5. データベース部会
6. 東海支部
7. .NET開発基盤部会
8. ビジネスアプリケーション部会
9. 分散コンピューティング部会

Cyber Physical Embedded部会

2017年6月版



Copyright (C) OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

Copyright (C) 2007 TADASHI YOSHIMASA. All Rights Reserved

部会紹介

OSS Consortium

CPE部会について

(1)目的
組込みで使えるオープンソースを比較検討し、長所や問題点の議論を行うと共に、情報を共有し、組み込みにおけるOSSの普及・利用促進に向けた活動を行う。
昨今のAI利用の流れに従い、AI・機械学習関連オープンソースの応用検討も合わせて行う。

(2)参加対象
組込みで使えるOSSに興味がある人

(3)活動内容
Android, Linux, BSD, OpenSolaris, GTK, OpenGL ES, OpenCVなどの従来のOSSに加え、Tensorflow,Caffe,Chainer等AI・機械学習系OSSの組込み応用について調査や、議論する。

(4)活動周期
部会を二ヶ月に一回
場所：都内で開催

(5)メリット＆成果物
組込みでのOSS活用技術及び動向に関する最新情報が入手できる。
部会での調査・議論結果を成果物として展開組込み部会主催のセミナー実施をする。

Copyright (C) OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

CPE部会について

部会リーダー

・株式会社アックス代表取締役社長 竹岡 尚三

・TIS株式会社 AIサービス事業部AI企画開発部主査 佐伯 純

竹岡 尚三

佐伯 純

Copyright (C) OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

CPE部会活動内容

- **無料セミナー開催**

  -年 3～4 回　最新の組み込みOSSに関する情報の提供

  -組込みとクラウド応用,センサデバイスの活用,ロボット などを特集

- **初心者向けハンズオン企画・実施**

  -はんだ付けの実践から、完成したものを活用した応用

- **女子部活動 支援**

  -女性エンジニアや女性入門者の活動支援

  -現在女子部部長不在のため絶賛募集中

Copyright (C) OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

東京でのセミナー開催実績

- 2016年8月6日　「女子にも優しいIoTハンズ・オンセミナー」
  - JASA会議室にて開催
  - Raspberry Piを活用したセンシングハンズ・オン
- 2016年8月23日　「女子にも優しいIoT Azureハンズ・オンセミナー」
  - 日本マイクロソフト本社にて開催
  - IoT ALGYANとの共催でAzure活用とセンサデバイス利用の応用
- 2017年5月19日　「いまさら聞けないIoTクラウド超入門」
  - JASA会議室にて開催
  - DB部会との合同セミナーとしてセンシングとDBの応用、データの見える化について実施

Copyright (C) OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

過去の女子部の活動の様子

- いわゆるハンズオン
- Android連携マイコンなど

女性エンジニアがはんだ付け勉強会

OSSコンソーシアム組込み部会女子部主催

オープンソースビジネス推進団体であるOSSコンソーシアム（会長＝渡辺剛喜・サイバーコム副社長）の組込み部会女子部主催による「ハンダ付け勉強会」が23日、若松通商6階のアキバNET館で行われた。

女性エンジニアから「はんだ付けを体験し、ものづくりをしたい」という声が上がり実現したもので、今回が4回目の開催。参加者は組込み系、IT系など部会以外の一般参加もあり、女性5人、サポート男性6人。書籍付録の基板を利用し、Arduino互換ボードを作成した。

参加者からは「はんだ付けは経験しておいた方がいいと思った」「業界の人と交流できる場がうれしい」と様々な声が上がっていた。

小暮敦彦アキバNET館長は「当館は、技術者の交流の場として新ビジネスモデルの創出を図ることも目的。こういう勉強会は歓迎する」と話す。

女子による女子のための勉強会（アキバネット館で）

Copyright (C) OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

過去の女子部の活動の様子

Copyright (C) OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

次回セミナー

- 夏休みはんだ付け講習会
  子供パソコン「IchigoJam」の組上げから、利用してみるまで
  開催日時・場所：
  - 開催日 ８月２６日 １４：００～
  - 開催場所　JASA本部 3F 会議室

Copyright (C) OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

部会案内

1. オープンCOBOLソリューション部会
2. 教育ICT部会
3. クラウド部会
4. Cyber Physical embedded部会
5. データベース部会
6. 東海支部
7. .NET開発基盤部会
8. ビジネスアプリケーション部会
9. 分散コンピューティング部会

「データベース部会」のご紹介

TIS株式会社　山本 文彦

➢データベース部会とは

データベース領域でのオープンソースの更なる発展促進を図る

2015年6月設立（3年目）

- 特定のプロダクトにとらわれず、第三者的な立場で様々なデータベースの情報を収集し、ユーザ・ベンダにフィードバックする機会を提供する。
- データベースの垣根を越えたイベント等を開催する

OSS Consortium

➢活動内容

- 隔月1回程度の部会ミーティングを実施

- OSCへの参加

ブース

セミナー

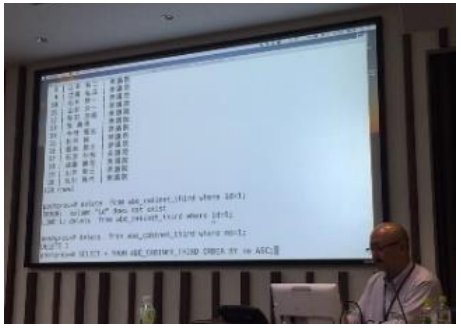
OSS Consortium

➢活動内容

・DB関連のセミナーを開催

MySQL on Azure ﾊﾝｽﾞｵﾝ

PostgreSQL on Azure超入門



オープンソースデータベース比較セミナー

Redis

PostgreSQL

MySQL

OSS Consortium

➢活動内容

『gihyo』の連載

OSSDB　取り取り時報　検索

人気OSSDBの最新情報を連載
- MySQL,
- PostgreSQL
- NoSQL
  - Cassandra
  - Spark
  - Riak

OSS Consortium

➢2017年度今後の予定

●オープンソースカンファレンス(OSC)

OSC 2017 Tokyo Fall

OSC 2017 .Enterprise

OSC 2018 Tokyo Spring

●データベース比較セミナー(10月下旬)

●NoSQLハンズオン(下期開催予定)

OSS Consortium

➢参加対象

- オープンソースデータベースを活用したソリューション、サービスを提供している企業、技術者

- 上記のソリューション、サービスを活用している、又は興味のあるユーザ

参加企業募集中！

OSS Consortium

参加企業(50音順)

- 株式会社INTHEFOREST
- 特定非営利活動法人エルピーアイジャパン
- DataStax Inc
- TIS株式会社
- 株式会社デジタル・ヒュージ・テクノロジー
- 日本オラクル株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ

OSS Consortium

OSSコンソーシアム　データベース部会を
宜しくお願いします！！

ご参加お待ちしております！！

OSCコンソーシアム　DB部会

検索

OSS Consortium

部会案内

1. オープンCOBOLソリューション部会
2. 教育ICT部会
3. クラウド部会
4. Cyber Physical embedded部会
5. データベース部会
6. 東海支部
7. .NET開発基盤部会
8. ビジネスアプリケーション部会
9. 分散コンピューティング部会

部会案内

1. オープンCOBOLソリューション部会
2. 教育ICT部会
3. クラウド部会
4. Cyber Physical embedded部会
5. データベース部会
6. 東海支部
7. .NET開発基盤部会
8. ビジネスアプリケーション部会
9. 分散コンピューティング部会

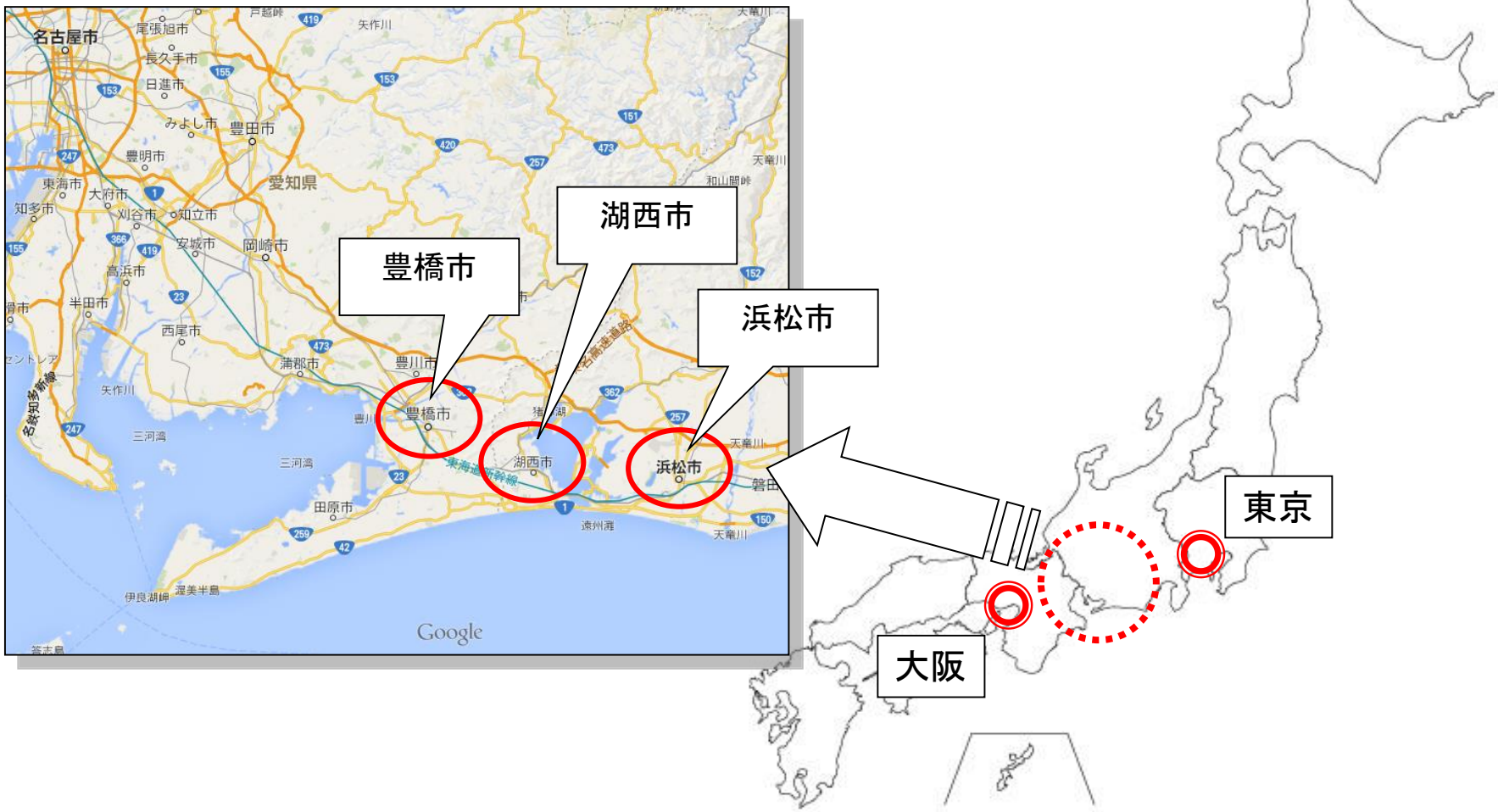
OSSコンソーシアム 東海支部

支部長
（株）パドラック　杉本等

OSSコンソーシアム・東海支部について

主な活動拠点

東京～大阪のちょうど真ん中。
湖西市・浜松市・豊橋市を中心に活動を行っています。



東海支部について

活動趣旨

「東海地方におけるオープンソースソフトウェアの普及および利用促進に向けた活動を行う」

地域におけるOSSへの潜在性の確認と発見。
＆地域IT意識の活性化を図る。

東海支部について

OSS Consortium

活動概要

（1）目的

・東海地方におけるオープンソースソフトウェアの普及
および利用促進に向けた活動を行う

（2）参加対象

・オープンソースソフトウェアに興味のある方
・オープンソースソフトウェアを利用している方
・オープンソースソフトウェアのビジネスを検討している方
・オープンソースソフトウェアの情報交換をしたい方

（3）活動内容

・オープンソースソフトウェア関連セミナーの開催
・オープンソースソフトウェア関連イベント紹介
・オープンソースソフトウェア利用の相談
・「オープン」をキーワードにした地元ITコミュニティの支援
・オープンソースソフトウェア開発のオフショアの調査
・オープンソースソフトウェア案件の海外進出調査

東海支部について

活動概要

（4）活動周期

・2ヶ月に1回程度のミーティングで活動

・MLおよびWeb上での情報交換

（5）メリット＆成果物

・オープンソースソフトウェアについての最新情報の取得

・オープンソースソフトウェアに関する自社サービスなどの宣伝

・「オープン」をキーとした協業の構築

・「オープン」をキーとしたビジネスの発掘

（6）支部長

支部長

・株式会社パドラック 代表取締役　杉本 等

（7）事務局

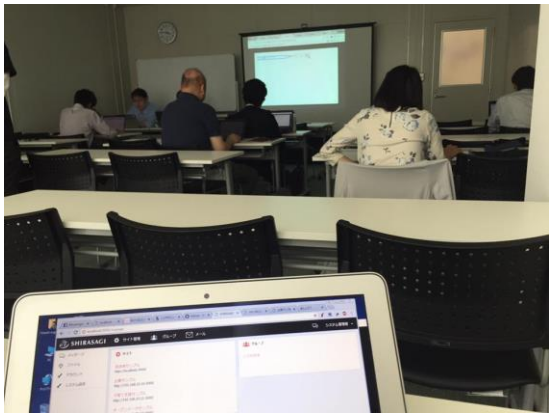
・株式会社サイエンス・クリエイト 事業部 係長 竹本 敦

東海支部について

2016年度の活動

主催「オープンデータ CMSを知る」6/12

「オープンデータの推進に関する徳島県の取組みについて」
徳島県 政策創造部統計データ課 分析・政策支援担当主任　新久保 渡
「オープンソースソフトウェア「シラサギ」の紹介」
株式会社ウェブチップス
「シラサギCMSのサイト構築を体験しよう！」
株式会社ウェブチップス



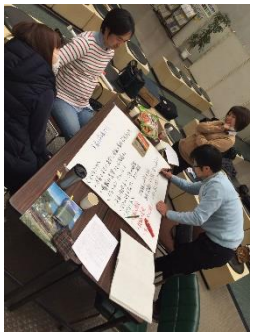
この地域で、OSSなCMSのハンズオン初開催

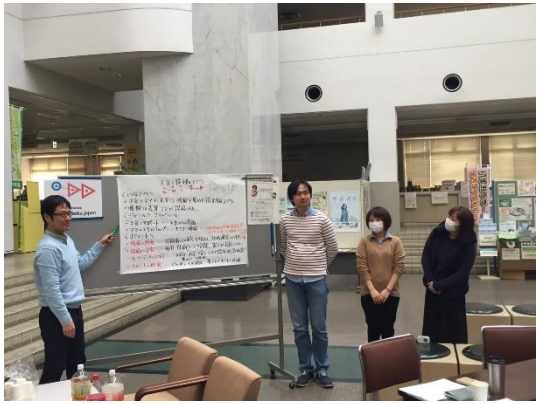
東海支部について

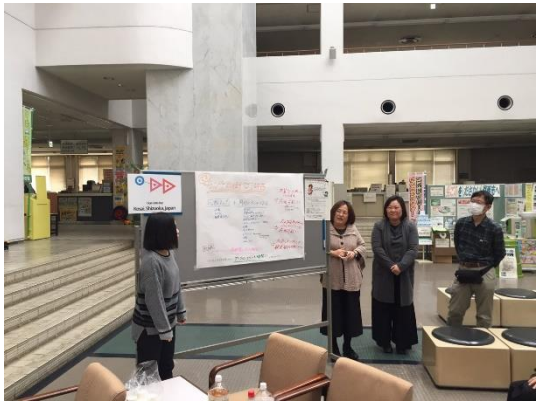
2016年度の活動

後援:オープンデータ浜名湖 Night（全5回）

後援:ママからうまれる地域の資源～オープンデータデイ2017 in Kosai～ 3/20







OSS Consortium

2017年度の活動

- Uターン、Iターン向けのOSSセミナーの開催
- 「オープン」を活用した地域でのIT教育への支援
- 地域支援機関と協力し、他部会を招いてのミニセミナー
- 「オープンデータ浜名湖」など地域コミュニティの活動支援

まずはお問い合せください。

tokai-staff@osscons.jp

OSS Consortium

ミーティングの見学は無料です。

積極的に参加活動していただける

会員を募集！

部会案内

1. オープンCOBOLソリューション部会
2. 教育ICT部会
3. クラウド部会
4. Cyber Physical embedded部会
5. データベース部会
6. 東海支部
7. .NET開発基盤部会
8. ビジネスアプリケーション部会
9. 分散コンピューティング部会

.NET開発基盤部会 2017

リーダー　西野大介

部会コンセプト

OSS Consortium

～ issueスタートで、なんかやろう ～

当部会では、issueを解決するための技術的なアウトプットをします。

（.NETを中心に活動していましたが、情勢も変わってきているので.NET以外の技術にも取り組みます）

コンセプトの経緯

OSS Consortium

去年は、「ミートアップ → スタートアップでサービス開発」というコンセプトで活動を行ったが、この結果は失敗に終わった。

しかし、開発したプログラムを、サービス開発基盤としてリリース。この中核機能である、「汎用認証サイト」（OAuth2.0機能を持つIdP + STS）は某グローバル企業のIdP + STSにも導入された。

思っていなかった方向で結果が出たと思う（ある意味、ピボットして、成功した？）。

部会活動内容

OSS Consortium

(1) 目的

- issueを解決する技術的なアウトプットを行う。

(2) 参加対象

- 解決すべきissueを持っているユーザ、企業。
- issueの解決方法などを検討する技術者、企業。

(3) 活動内容

- issueを解決する技術的なアウトプットの作成。
- アウトプットについてのセミナー開催、カンファレンス出展。

(4) 活動周期

不定期、サブワーキング毎に活動します。

(5) メリット＆成果物

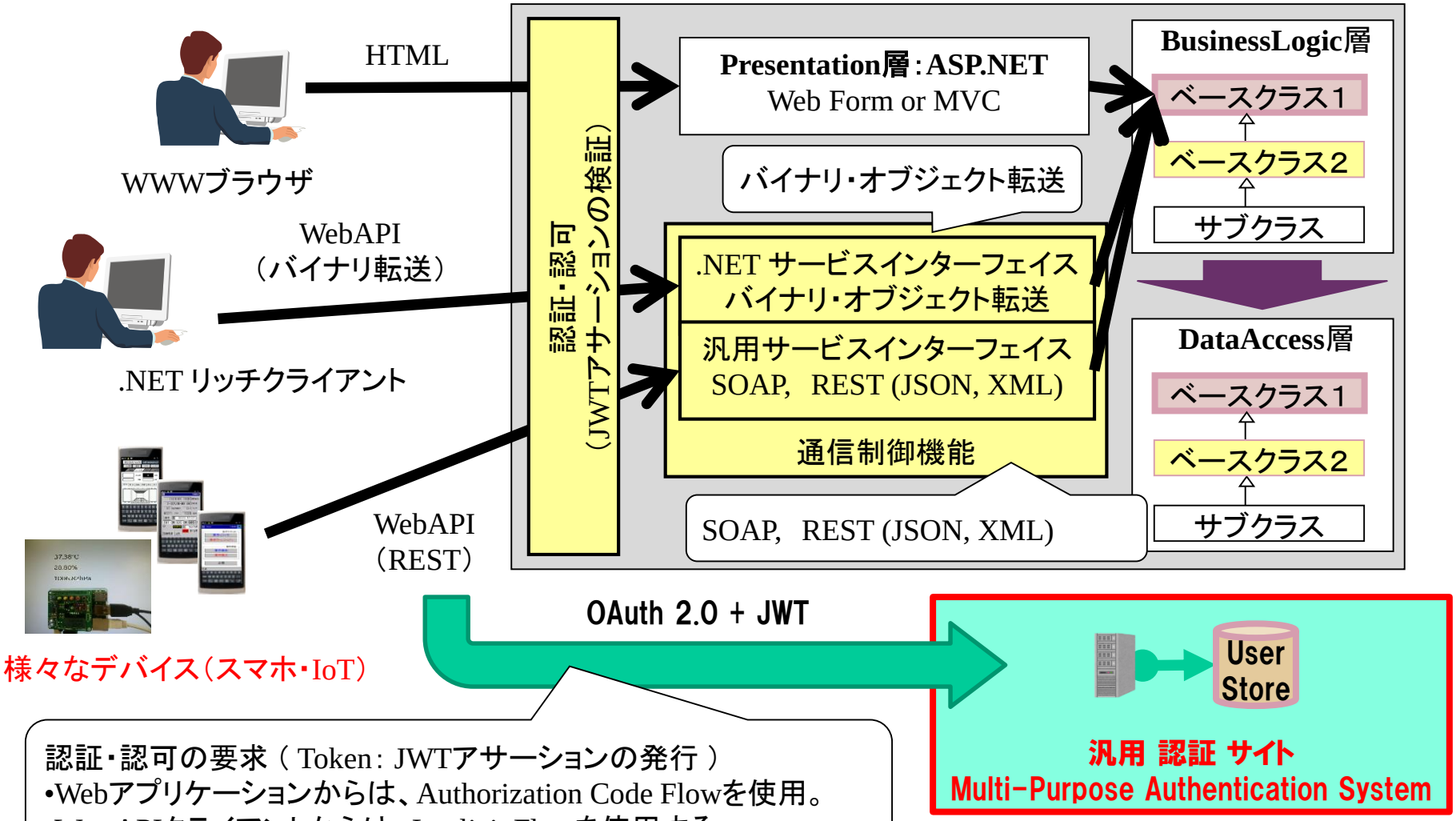
- ナレッジの蓄積・利用、最新技術の習得。
- アウトプットを使用したソリューション・サービスの開発が可能。

issueの具体例

- SI事業は色々問題抱えているが、殆どの問題は解決されずに、塩漬けになっている。
- SoR と SoEの融合というニーズの高まりへの対応（JSON, JWT, OAuth2等の対応）を強化し、異種プラットフォーム間連携を実現。
- フィジカルデバイスと情報システムと連携させるニーズの高まりへの対応。IoTソリューションの迅速なPoCを実現（これらに対応していくための力を養う）。

solutionの一例（1）

.NET Standardに対応することで、Linux、スマホ、IoTデバイスなどのマルチ・プラットフォーム化も可能に。

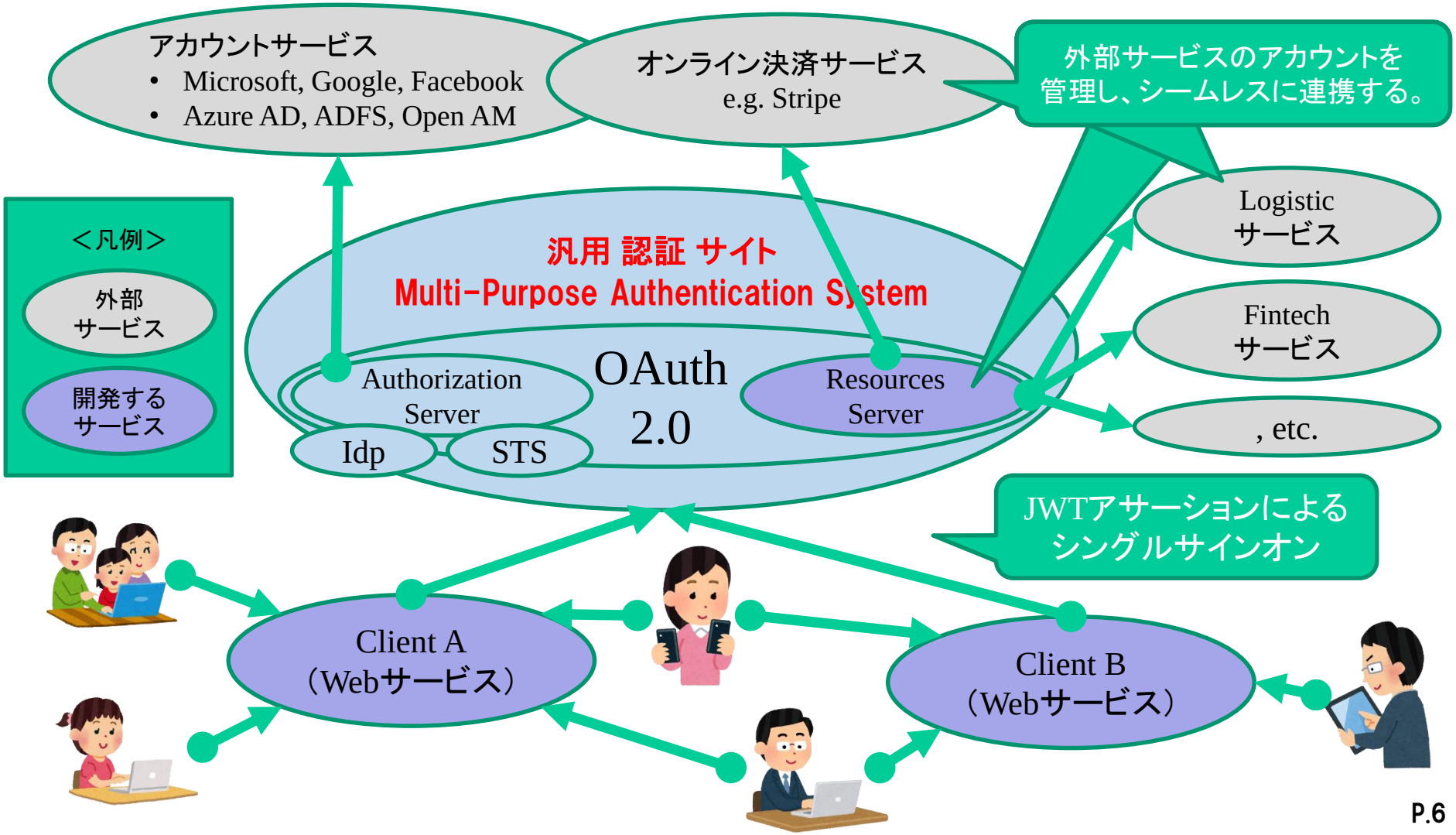


認証・認可の要求（ Token: JWTアサーションの発行 ）
- Webアプリケーションからは、Authorization Code Flowを使用。
- Wep APIクライアントからは、Implicit Flowを使用する。

solutionの一例 (2)

OSS Consortium

ユーザ管理、Client間のSSO、外部サービス活用により、マルチサイド・プラットフォーム・ビジネス※の立ち上げを支援



OSS Consortium

お気軽に
ご参加下さい。

.NET 開発基盤部会 - OSSコンソーシアム

https://www.osscons.jp/dotNetDevelopmentInfrastructure/

部会案内

OSS Consortium

1. オープンCOBOLソリューション部会
2. 教育ICT部会
3. クラウド部会
4. Cyber Physical embedded部会
5. データベース部会
6. 東海支部
7. .NET開発基盤部会
8. ビジネスアプリケーション部会
9. 分散コンピューティング部会

ビジネスアプリケーション部会

Copyright (C) 2010 OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

活動主旨

- オープンソースビジネスアプリケーションの積極的な普及啓蒙活動を行うことにより、各ビジネスアプリケーションの繁栄を図りOSSの普及にも貢献する

Copyright (C) 2010 OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

参加対象者

- オープンソースビジネスアプリケーションを使ったビジネスモデルに興味がある個人、企業、団体
- オープンソースビジネスアプリケーションの利用を検討されている、もしくは既に利用している個人、企業、団体

Copyright (C) 2010 OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

現在のBA部会参加メンバ

- 基幹業務を中心にOSS業務アプリ導入を支援する企業、個人が参加しています

LIFERAY

Alfresco

統合型顧客管理・営業支援システム
SUGARCRM

OSS Consortium
ビジネスアプリケーション部会

NemakiWare

MosP

Copyright (C) 2010 OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

活動内容

- OSS業務アプリを紹介・活用方法を学ぶ
  セミナー　・ワークショップ
- 部会ミーティング

Copyright (C) 2010 OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

BA部会

ビジネスアプリケーション部会勉強会①

テーマ
「Microsoft Azureのご紹介」
講演者
マイクロソフト株式会社
デベロッパーエバンジェリズム統括本部　エバンジェリスト
久森 達郎氏

概要
Microsoft Azureに関する最新の情報を交えたご紹介をいただきます。
その後、質疑応答を交えMicrosoft Azureの理解を深めていただく勉強会。

Copyright (C) 2010 OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

BA部会

ビジネスアプリケーション部会勉強会②

テーマ
「.NETフレームワーク＆SaaS基盤　オープン棟梁を知る」

講演者
日立ソリューションズ
西野　大介 氏

概要
日立ソリューションズの生産技術部で活躍する西野氏が、今までの経験を活かした.NETフレームワークとSaaS基盤を開発しオープンソースとして公開しています。最先端の技術が詰まったオープン棟梁の全貌を余すところなく教えていただきます。

Copyright (C) 2010 OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

メリット

- セミナー等を通してユーザ企業との接触が可能
- 自社製品、技術のアピール＆メンバ企業との協業
- 今年度はOSS以外のプロダクトやクラウドサービスとOSSビジネスアプリケーションとの連携をテーマに活動していく予定です
- 今知りたいことを勉強会として企画できる
- 体制（リーダー）
  - 株式会社ゼンク　代表取締役　増田　芳憲
  - 株式会社イージフ　プロダクトマネジャー　杉本　琢磨

Copyright (C) 2010 OSSコンソーシアム. All Rights Reserved.

部会案内

1. オープンCOBOLソリューション部会
2. 教育ICT部会
3. クラウド部会
4. Cyber Physical embedded部会
5. データベース部会
6. 東海支部
7. .NET開発基盤部会
8. ビジネスアプリケーション部会
9. 分散コンピューティング部会

分散コンピューティング部会

分散コンピューティング部会 リーダー
株式会社日立ソリューションズ
才所 秀明

はじめに

OSS Consortium

- 今年度より、「Asakusa Framework部会」は「分散コンピューティング部会」に変わります。

- 日本発の分散環境用高速バッチ開発フレームワークである「Asakusa Framework」中心の活動から、分散コンピューティング関連技術全般に活動対象を広げます。

- 「Asakusa Framework」の活動も引き続き行います。

ちなみに・・・

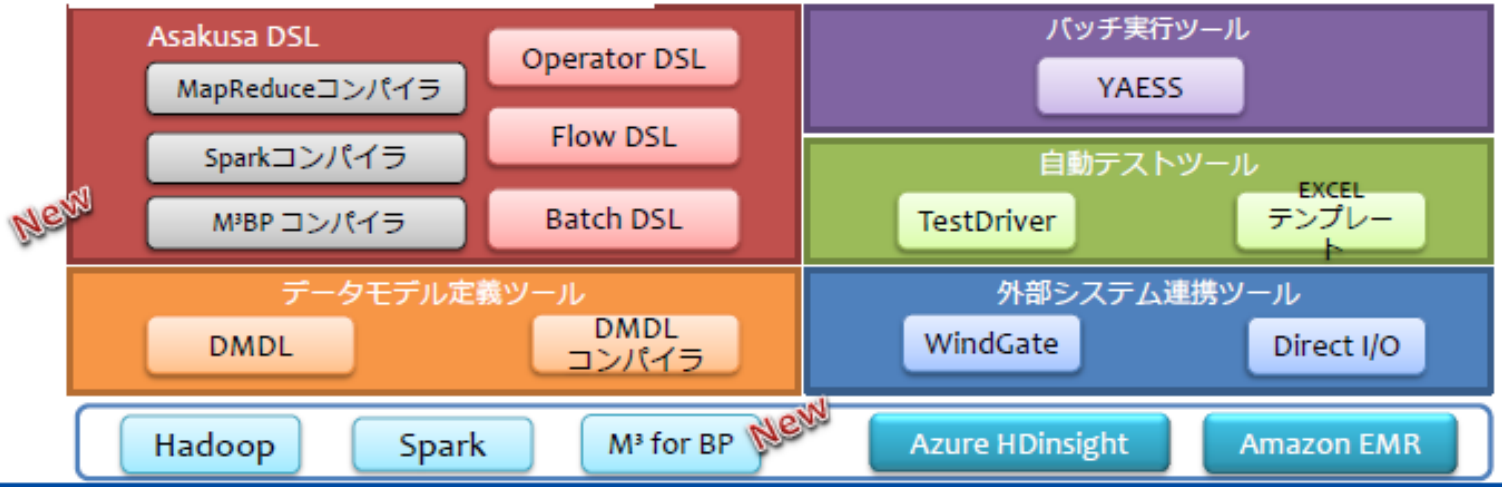
OSS Consortium

Asakusa Frameworkとは

Asakusa NAUTILUS

- **分散環境用高速バッチ開発フレームワーク**
  - Asakusa Frameworkは業務システムのバッチ処理に、並列分散処理の能力を活用する開発用フレームワーク
  - Hadoop/Spark/M³ for BP等の分散処理に対応し、分散環境向けアプリケーション開発に必要な開発環境・実行環境・運用環境を用意
- **分散処理のアプリケーション開発を容易にし、更に高速化**
  - 分散処理のプログラムは、Asakusaのコンパイラが自動生成し最適化を実施
  - MapReduce/Spark/M³ for BPのコードを、１つのAsakusaDSLで生成可能

Asakusa Frameworkコンポーネント



Copyright © 2016 Nautilus Technologies, Inc. All rights reserved.
Proprietary & Confidential

昨年度のAsakusa Framework部会の活動成果

昨年度のAsakusa Framework部会の活動成果

OSS Consortium

- 部会開催
  - Asakusa Frameworkの最新情報の共有
  - 技術情報及びビジネス情報の情報交換
  - 主催セミナーの企画、成果物(後述)の作成

  ・・・

- 2016 Asakusa Framework Dayの開催
  - 2014年、2015年に引き続き開催
  - 昨年より参加者数は減ったものの金融系を中心に参加頂く(約30社45名)

- Asakusa Framework紹介資料及び、部会成果物の公開
  - 「Asakusa Frameworkのご紹介(部会公開版v1.0)」
  - 「Asakusa Framework　適用判断ポイントv1.0」

【ご参考】2016 Asakusa Framework Day（2016/11/25）

OSS Consortium

「初歩から始めるAsakusa Framework」
株式会社ノーチラス・テクノロジーズ　白石 章 氏

「エンタープライズでのHadoop/Spark本格活用を加速させる、
Oracle Big Data　ApplianceとAsakusa Frameworkの連携」
日本オラクル株式会社　大橋 雅人 氏

「Asakusa Frameworkをメインフレーム上に食わせるとどうなるか？」
日本アイ・ビー・エム株式会社　藤岡 英典 氏

「Asakusa Frameworkの今後の方向性」
株式会社ノーチラス・テクノロジーズ　神林 飛志 氏

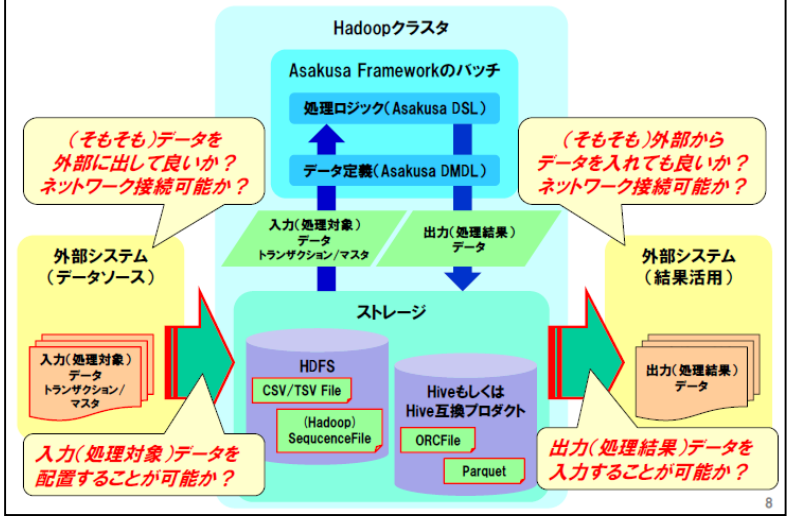
【ご参考】「Asakusa Framework　適用判断ポイントv1.0」の一部

OSS Consortium

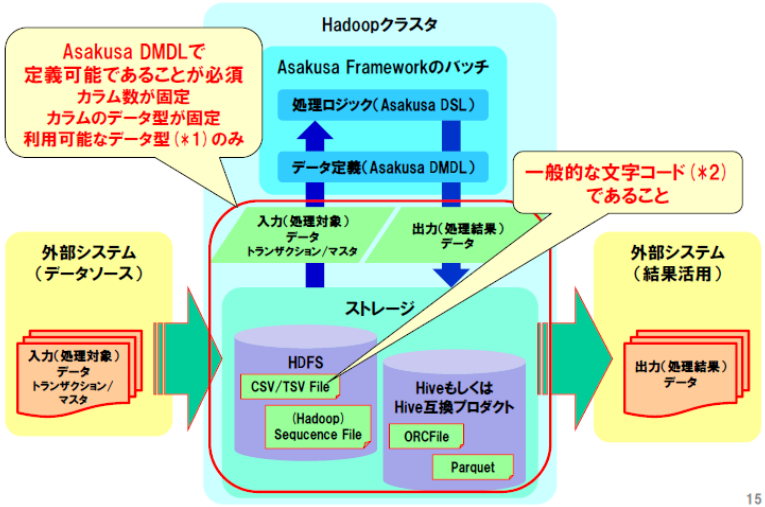
Asakusa Framework適用判断ポイント

OSSコンソーシアム　Asakusa Framework部会
http://www.osscons.jp/asakusafw/

データ連携の判断ポイント(１)

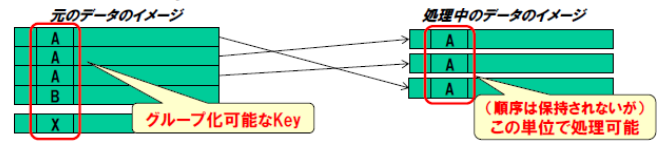


入出力データの判断ポイント(２)

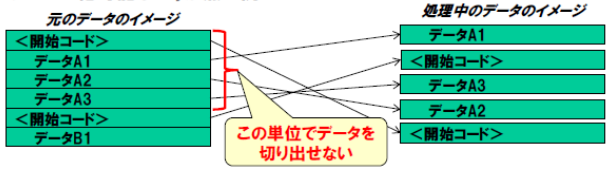


処理単位の判断ポイント

- 複数レコード(行)単位の処理が必要な場合
  - 処理単位でグループ化可能なKeyに相当するデータがあれば可能
    - グループ化可能なKeyがある例



    - グループ化可能なKeyが無い例



  - 元のデータになければ、グループ化を可能とするKeyが付与可能か検討

昨年度のAsakusa Framework部会の活動成果

OSS Consortium

- 部会開催
  - Asakusa Frameworkの最新情報の共有
  - 技術情報及びビジネス情報の情報交換
  - 主催セミナーの企画、成果物(後述)の作成

  ・・・

- 2016 Asakusa Framework Dayの開催
  - 2014年、2015年に引き続き開催
  - 昨年より参加者数は減ったものの金融系を中心に参加頂く(約30社45名)

- Asakusa Framework紹介資料及び、部会成果物の公開
  - 「Asakusa Frameworkのご紹介(部会公開版v1.0)」
  - 「Asakusa Framework　適用判断ポイントv1.0」

上記セミナー資料及び紹介資料、成果物は
下記よりダウンロードできます。
https://www.osscons.jp/asakusafw/download/

OSS Consortium

Asakusa Framework部会から
分散コンピューティング部会へ

分散コンピューティング関連技術(の一部)

OSS Consortium

elasticsearch kibana

検索/可視化

nifi

データーフロー

TensorFlow dmlc MXNet

AI/Deep Learning

Asakusa

APACHE hadoop

分散バッチ

APACHE Spark

APACHE STORM

Flink

APACHE kafka A distributed streaming platform

HERON

分散ストリーム

presto

APACHE DRILL

分散クエリエンジン

APACHE KUDU

OLC Apache

Parquet

カラムナ・フォーマット/ストレージエンジン

docker

Apache MESOS

Dockerコンテナ & スケジューリング

これまでの(Asakusa Framework部会の)活動

OSS Consortium

elasticsearch kibana

検索/可視化

nifi

dmlc MXNet

Learning

Asakusa Frameworkを
中心に(狭く)深く活動

Asakusa

APACHE hadoop

分散バッチ

APACHE Spark

APACHE STORM

Flink

APACHE kafka
A distributed streaming platform

HERON

分散ストリーム

presto

APACHE DRILL

分散クエリエンジン

APACHE KUDU

Parquet

カラムナ・フォーマット/
ストレージエンジン

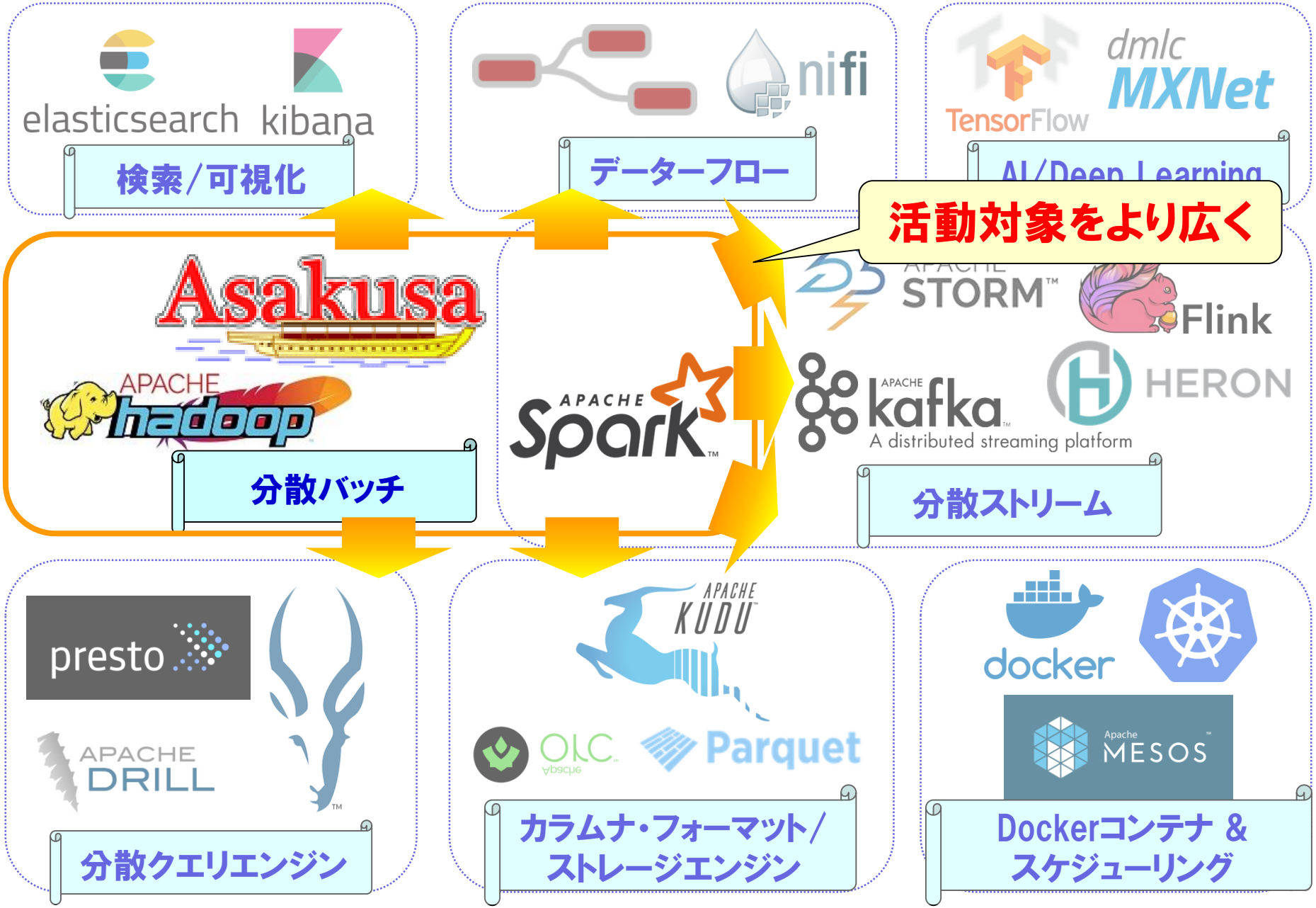
docker

Apache MESOS

Dockerコンテナ &
スケジューリング

これからの活動

OSS Consortium



今年度の活動予定及び体制

OSS Consortium

- 活動予定
  - 部会
    - 隔月に都内近郊で開催
    - 技術情報・ビジネス情報の交換、セミナー企画など
  - 主催セミナー開催
    - 2017 Asakusa Framework Day(仮)
  - その他
    - 勉強会等の共催・後援

- リーダー
  - 株式会社日立ソリューションズ　才所　秀明
  - 株式会社ノーチラス・テクノロジーズ　目黒　雄一

一緒に活動して頂ける方は、是非ご連絡を！

OSS Consortium